



大阪府内魚類相データの収集

生物多様性の評価や、絶滅のおそれのある種（レッドリスト記載種）の選定、保全のための最も基礎的かつ重要な知見として、主に河川の魚類生息状況を調査しています。

調査方法

- 魚類の調査には河川環境や対象となる種によって、様々な漁具や方法を使います。



投網



タモ網



地曳網

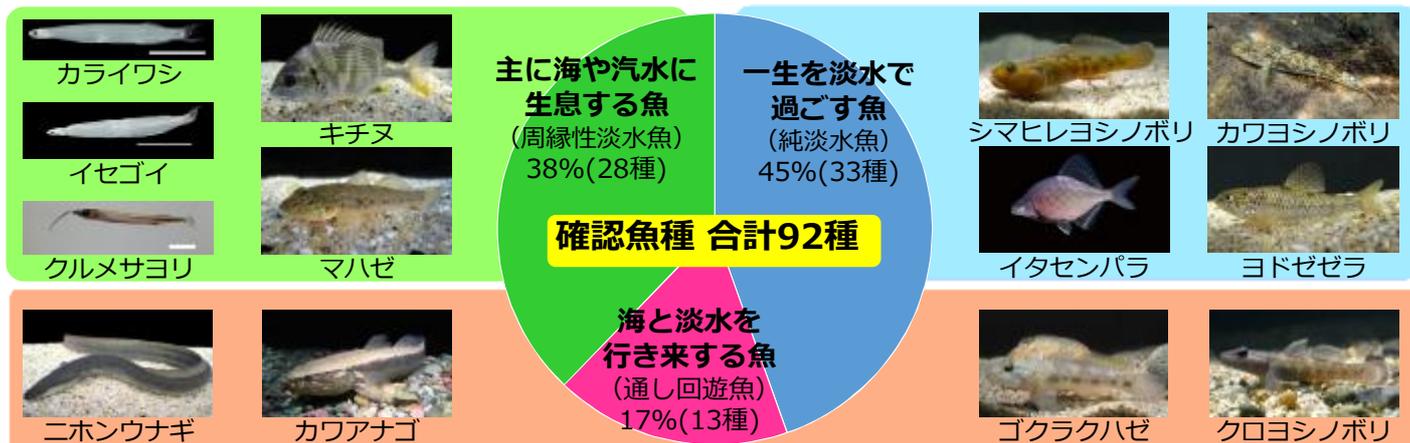


潜水目視

府内22河川の調査結果（2012年～2015年）

在来種を74種確認

- 通し回遊魚と周縁性淡水魚（汽水域で採集した海産魚含む）が過半数を占めました。



外来種を18種確認

- コクチバスやチャネルキャットフィッシュ、アリゲーターガー、オヤニラミなどの外来種を確認しました。



新たな調査手法の導入～環境DNA～

- 従来の捕獲調査に加え、**環境DNA**を用いた調査手法の導入に取り組んでいます。

